

続いて、地元鶴川市民を代表して意見を申し上げます。

集約の対象になっている鶴川図書館は、市内図書館の規模では8番目の小さな図書館ですが、先に教育委員会が行った「町田市生涯学習に関する市民意識調査」でも、利用しているとの回答は全館で4番目でした。利用者も40代の子育て世代が一番です。また、鶴川図書館の周りには、たくさんの保育園や幼稚園があり、鶴川図書館から、本の団体貸し出しをしてもらっているところも増えています。このような地域の個人や団体から、鶴川図書館が無くなるのは困るという声をたくさん聞いています。

鶴川地域より人口が少ない稲城市には、図書館が6館あります。稲城市より人口も多く、面積も広い鶴川地域で図書館を1つにするなんてとんでもない話です。

この鶴川図書館がある鶴川団地は、現在建て替え計画を練っていますが、その中にコミュニティの核となる図書館があることは、鶴川住民の共通した願いなのです。市の掲げる団地再生基本方針にも沿うことになります。

私たちは、2017年9月に、5621筆の署名を添えて、鶴川図書館の存続を願う請願を行い、議会において全会一致で採択されました。また、現在も継続して行っている市長への存続要望書の署名も、延べ8000筆にのぼっています。このような数字は、鶴川図書館が地域の文化と教育に、とってどれだけ大切な存在であり、地域に愛されているかを示しています。

「町田市立図書館のあり方見直し方針」にある「町田市立図書館のめざす姿」の1番目には、「あらゆる市民が利用しやすい図書館」と書かれています。その目標と、図書館の数を減らし、移動図書館車も減らすという、この「プラン」の方向とは、どのように繋がるのでしょうか。

前の陳述にもありましたように、教育委員会は、市の行政から独立しているはずですが、市の財政的な事情を最優先に考慮するのではなく、まず町田市民の生涯学習、町田の子どもたちの教育に、何が一番必要なかを考えていただき、本日の定例会で「プラン」を承認するのではなく、時間を十分にかけて、市民の図書館への思いを大切に「プラン」へと再検討してくださることをお願いいたします。